

研究テーマ

わくわく・どきどきが伝わる生活科の創造
～豊かな体験や探求活動を通して～

日立市立水木小学校

<実践事例> 1年 「こうえんにいこう」

1 単 元 こうえんにいこう

2 目 標

- 遊び場や野原へ出かけて行き、友達と仲良く遊んだり、探検したりしている。(関心・意欲・態度)
- 友達と工夫しながら遊具遊びやゲーム・草花遊び・虫探しその他をして、楽しかったことなどを絵や文にかいて表現することができる。(思考・表現)
- 遊び場は多くの人々が利用していて、いろいろな施設があり、みんなのものということに気付いている。(気付き)

3 指導にあたって

入学して2ヶ月余り、「ともだちいっぱい」や「学校探検」などの活動を通して、子どもたちは、学校生活にも慣れ、友達と仲よく遊べるようになってきた。ここでは「もっとあそびたいな」という願いのもと、身近にある「公園」に行き、子どもたちの季節感や自然物に対する思いを、子ども一人一人の個性を生かして表現する経験を味わわせたい。地域との密着をめざし、様々な人々や自然とかわる学習環境としての「公園」は、子どもの発想や思いを膨らませる総合的な学習素材である。そこでの探検を通して、公共の施設を利用する上での「やくそくやきまり」を学び、いろいろな遊びを楽しみながら、自然とのかかわりや人とのコミュニケーション力を高めていくことができる。

<実態調査> (6月5日 男子13名 女子14名 計27名実施)

1 家の近くに公園はありますか。	ある	22人	ない	3人	わからない	2人
2 近くの公園で遊びますか。	よく遊ぶ	14人	ときどき遊ぶ	9人	あまり遊ばない	4人
			あそんだことはない	0人		
3 公園でどんな遊びをしましたか。	遊具を使う	18人	ボール	4人	鬼ごっこ・自転車・砂場あそび	各3人

子ども達は、近所に公園があることを知っており、日頃から遊び場にしていることがわかる。公園内では、ブランコや滑り台など遊具の利用がもっとも多く、自然とかわつたり、コミュニケーションを楽しんだりする子どもは比較的少ないことがわかった。

指導に当たっては、まず身近な通学路を話題にし、そこにあるものや、出会う人、通りの様子、自然などに目を向けさせたい。初めての校外学習なので、行き帰りや公園内での安全面に十分配慮した上で、公園ではなるべく自由に過ごさせ、その子らしい個性が表れるよう見守りたい。学校へ帰ってからは、楽しかったことや発見したことを自分なりの方法でまとめ、知的な気付きへと発展させたい。

4 指導・評価計画(6時間取り扱い)

第1次	がっこうにくるみちでみつけたよ	1時間
第2次	きをつけてあるこう	1時間
第3次	みんなであそぼう	2時間
第4次	こうえんたんけんのまとめをしよう	2時間

○は本時

次	時	主な学習活動・内容	観 点	評価規準(評価方法)
4	1	・公園で遊んだことや見つけたことをカードなどにまとめる。	思・表	・楽しかったことや見つけたことなどをカードなどに表現することができる。(発表・カード)

	②	・公園にある便利なものや気持ちよく つかうためのルールなどをまとめ る。	気付き	・公園には、さまざまな利用者がいる ことや仲よく遊ぶためのルールが あることに気付いている。 (ワークシート・発表)
--	---	--	-----	---

5 本時の指導

(1) 目 標

- 公園探検をふりかえる活動を通して、公園には、自分たち以外にもさまざまな利用者がいることや仲良く遊ぶためのルールがあることに気付くことができる。

(2) 準備・資料

学区の絵地図 公園の写真 児童が書いたカード ワークシート

(3) 展 開

☆コミュニケーション能力の向上に関わる手だて

○個に応じた支援の手だて

予 想 さ れ る 児 童 の 活 動	・ 支 援	◎ 評 価
1 本時の学習内容（活動）を確認する。 こうえんにあるものやくるひとについてまとめよう		
2 グループごとに話し合う。 ・公園にあるもの ・公園を利用している人 ・ワークシートにまとめる。 ベンチが2 こあったよ トイレやすいど うもあるね おとしよりがゲー ムをしたよ ぼくよりちい さいこもきて るよ	☆グループ活動では、声の大きさや聞き方などに注意して話し合わせる。 ・机を4，5人のグループにして話しやすい雰囲気の中で進められるようにする。 ○公園で遊んだ経験の少ない児童（3名）には泉ヶ森公園の写真などを手がかりに想起させる。	
3 グループで話し合ったこと発表する。 （公園にある物） （公園に来る人） おじいさんやおばあさん 赤ちゃんとお母さん 小さい子どもなど （使うときのきまり） 大切に使う 順番を守って使う	・いろいろな人が利用することから、公共の施設の使い方やルールに発展させる。 ・公園の掃除をしている人たちの写真を提示し、いろいろな人のかかわりに気付かせる。 ◎公園には、さまざまな利用者がいることや仲よく遊ぶためのルールがあることに気付いたか。 <気付き>（観察・ワークシート）	
4 本時の活動を振り返り、次時の活動について知る。		

6 資料

① 第1次 がっこうへくるみちでみつけたよ。

導入では、自分の家の周りにあるものや通学路で見つけたものを紹介した。その際に学校の周りの地図を提示し、児童の家を確認しながら行った。絵地図を使うことにより、距離感や主な道路などを意識させ、危険箇所などに目を向けさせるようにした。

その後、近くの公園の場所を確認し、絵地図に書き入れた。あまり公園で遊んでいないという実態もあり、学区にたくさん公園があることに驚いていた。

② 第2次 きをつけてあるこう

たくさんある公園の中から、遊びに行く場所を『泉が森公園』に決め、計画を立てた。事前に公園の様子がわかるように写真を用意したので、子どもたちは何をして遊ぶか、だいたいの見当をつけることができた。公園での約束や気をつけるポイントを絵地図を使って確認した。

③ 第3次 みんなであそぼう

公園では、池でざりがにや小さなえびを取ったり、草花を使って色水遊びをおこなう姿が見られた。

また、しろつめぐさで首飾りや指輪を作る子や笹舟を作って浮かべて遊ぶ子など、やりたいことを精一杯遊ぶ子が多かった。

④ 第4次 こうえんたんけんのまとめをしよう

楽しく公園で遊んだ後、まとめの学習を行った。公園にある施設や利用者などをもう一度、写真を見て確認した。

植樹の手入れをしている写真などを提示したので、公園を守るためにいろいろな人が仕事をしていることに気づくことができた。

7 成果と課題

<成果>

- ・本単元は1年生の児童にとって、初めての校外学習である。公園で遊ぶことがメインだが、事前の学習で絵地図を使用したり、掲示したりしたので通学路や学校の周りの道路の様子にも気づかせることができた。
- ・公園探検のまとめを行うことにより、「楽しかった」「おもしろかった」だけで終わるのではなく実際に見てきたことや写真をもとに、公共施設の役割や使い方の決まりについて確認することにより、みんなのものという意識を育てることができた。

<課題>

- ・公園探検は、季節の変化を感じたり、遊びが変わったりしながら年間を通して何回か、行いたい単元である。しかし、実際にはなかなか安全上の理由などから繰り返すことが難しい。
- ・公園で遊んでいる場面では、指導者は安全面をチェックしたり、アドバイスをしたりすることが多いので、見取りが難しく、評価がやや曖昧になりがちである。できるだけ写真を撮っておいたが、校外学習の評価は難しいと感じている。